

## 第 63 回秋季日本歯周病学会学術大会 特別講演 I Bruno G. Loos 教授をお迎えして

新潟大学医歯学総合病院 歯科総合診療部

小林哲夫

本年(2020年)10月16~17日に、石川県立音楽堂において、第63回秋季日本歯周病学会学術大会(大会長: 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔統合医療学講座歯周病学分野 三辺正人 教授)が開催されますが、その初日に、オランダ王国・アムステルダム大学(ACTA)歯周病学講座主任教授 Bruno G. Loos 先生をお迎えして、特別講演 I 「Periodontal Medicine: Past, Present and Future」が企画されております。

Loos 先生は 2006 年に ACTA の教授に御就任され、御専門の歯周病学・歯周治療学をはじめ、細菌学、免疫学、ならびに遺伝子学についても造詣が深い方です。これまでの academic activity としては、1) 歯周病の細菌学的検索、2) 歯周病関連遺伝子多型の同定、3) 歯周病と慢性炎症性疾患(特に、糖尿病、心疾患)の関連性の検証、を中心に、計 170 編以上もの国際学術論文を報告されており、今や、欧州歯周病学会のリーダーの1人であります。

Loos 先生との出会いは、1997 年に私が日本学術振興会特定国長期派遣研究員としてオランダ・ユトレヒト大学に留学している際に、当時師事した同大学医学部免疫学講座教授 Jan van de Winkel 先生が Loos 先生とお知り合いであったことに加え、従事していた研究プロジェクト(免疫グロブリン Fcレセプター遺伝子多型と歯周炎感受性の関連性の検証)が類似していたことがきっかけでした。その後 1999 年には、当時の ACTA 歯周病学講座主任教授 Ubele van der Velden 先生や准教授の Loos 先生を訪れまして、研究の打ち合わせや、当時の hot topic であった侵襲性歯周炎の診断について 5 時間 discussion したことがありました。このような御縁もありまして、光栄にも、この度の特別講演 I の座長を務めさせていただくこととなりました。

近年、歯周病と全身の健康との関連を示唆する研究報告が蓄積されてきており、これらのエビデンスは医科の様々な分野からも広く注目されているところです。超高齢社会を迎えた本邦では、多剤多病の高齢者の歯周病治療に医科歯科連携は必要不可欠であり、この点において本特別講演 I の内容は極めて timely であるといえます。

皆様の WEB での御参加を心よりお待ち申し上げます。